

2 展開例

「4つの力」を身に付けさせるための交通安全学習の事例として、小学校は低・中・高学年、中学校、高等学校の発達段階ごとに展開例を掲載している。

小学校では「生活」や「体育」における「保健」領域、中学校では「保健体育」における「保健分野」、高等学校では科目「保健」において交通安全を学習する場面があるが、ここでは教科以外で交通安全を学習する際の事例として特別活動（学級活動）での展開例を掲載している。学校にとっては交通安全学習に使える時間は限られていることから、短い時間での学習展開例も1事例掲載している。これらの展開例はあくまでも事例であり、各学校の児童生徒等の通学条件（自転車通学の有無やスクールバスによる通学等）なども考慮して内容を考えていく必要がある。

N o	校種	学年	指導場面	指導内容	指導 時間数
1 -	小学校	低	特別活動（学級活動） 生活	・安全な道路の歩き方を覚えよう ・みんなで通学路を歩こう※	1 -
2 -		中	特別活動（学級活動）	・自転車に乗るときに気を付けることは？	1 -
3		高	体育（保健領域） 特別活動（学級活動）	・交通事故の防止※ ・自転車ルールを理解と安全な行動計画	- 1
4 -	中学校	1	特別活動 （学級活動）	・事故に遭わない起こさない ～自転車運転の自己理解と事故の責任・補償～	1 -
		2	体育 （保健分野）	・交通事故の現状と原因※ ・交通事故の防止※ ・心肺蘇生法※	-
5		3	特別活動 （学級活動）	・自分たちにできること ～地域の安全を守る役割～	1
-	高等学校	1	保健	・交通事故の現状と要因※ ・交通社会における運転者の資質と責任※ ・安全な交通社会づくり※ ・心肺蘇生法※	-
6		2	特別活動 （ホームルーム活動）	・交通行動の自己理解と行動計画	1
7	中学校 高等学校		朝の会 帰りの会等	Traffic Safety News を活用した交通安全学習《短時間》	(15分)
8	その他の事例		特別活動（学校行事） 登下校時	交通安全に関する様々な取組	-

※教科での展開例は掲載していない

【学級活動の事前・事後指導】

学級活動で交通安全を取り上げるにあたり、事前指導としては終わりの会等で交通安全の問題意識を持たせ、事後の指導は学習を通じて設定した自己目標を実行しているかどうかを交通安全教室や日常の交通安全指導（校門付近での街頭指導等）で確認していくことが考えられる。また、学年・学級だより等を通じて家族と連携し日常生活での意識化を図ることも大切である。

1 小学校 1・2年生

安全な道路の歩き方を覚えよう

指導する学年	1 年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1 時間
本時のねらい	道路の横断の際には「とまる、みる、たしかめる」行動が必要であることを知り、安全な通行方法を身に付ける。				
使用する資料	文部科学省 「危険予測学習教材：次はどうなる」(平成 14 年) 「安全に通学しよう」DVD (平成 25 年)			基本的な指導内容	
				1 交通行動の基本 2 交通状況への適応力	

学習内容・活動

指導上の留意点

導 入

1. 下のイラストを見て、危ないと思う所を
発表する。



【危険予測学習教材：次はどうなる】

- イラストから危険なところを考えさせ、発表させる。
「このまま進んでも大丈夫かな？」
「何が危ないと思う？」

- 家の周りや通学路で見通しの悪い交差点や横断歩道がいくつあるかを確認させる。
- イラストの事例以外にも通行中危ないと思うことや危ない場所があれば発表させる。
- 交通事故は道路を渡るときに多く起きていることを伝える。

安全に道路を歩くにはどんなことに気を付ければよいだろう。

展 開

2. 安全に道路を歩くための方法を知る。
・DVDを視聴し、通行時の危険を考える。



【安全に通学しよう】DVD

※歩行中の様々な場面や状況での危険と回避行動を理解する。

横断歩道を渡るとき

道路の向こう側に知り合いがいるとき
信号機のある交差点

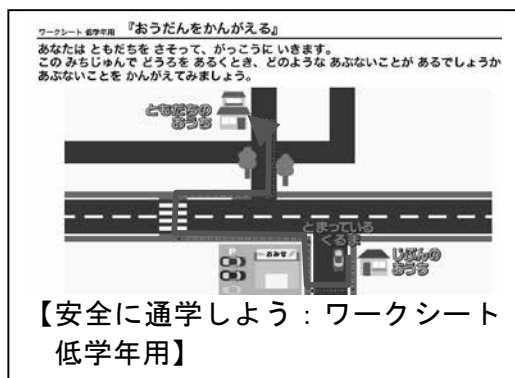
- 映像を見せながら、危険な場面で一時停止して、どんな危険があるか考えさせる。
- 事故に遭わないためにどんな行動をとればよいか、どんなことに気を付けて通行すれば良いかを考えさせる。

- * 道路横断のときは「とまる、みる、たしかめる」行動が大切
- * 信号が青になっても「とまる、みる、たしかめる」行動をしてから渡る
- * どんなことがあっても道路には飛び出さない
- * 路上では遊ばない
- * お店の近くでは駐車場へ出入りする車に気を付ける
- * 歩道いっぱい広がって歩かない
- * 駐車車両の直前・直後には近づかない

- 児童の実態や通学路の状況に応じて、必要と思われる場面を選択する。

見通しの悪い曲がり角
駐車車両の間からの横断

3. 安全な道路の歩き方を班で確認する。
- ワークシート内の危険と思う箇所にマルを入れ、その理由を話し合う。

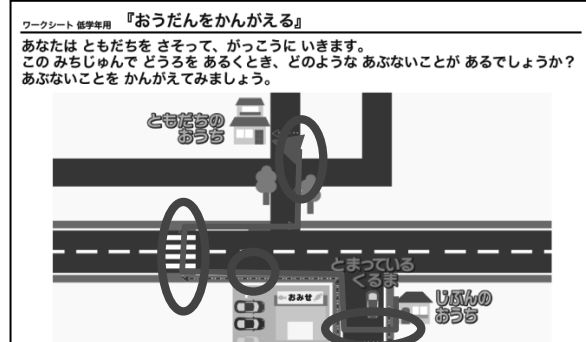


まとめ

4. 学んだことを振り返り、これからの生活に生かすことを考える。
- 「とまる、みる、たしかめる」を帰りの通学路で実践し、継続する。

- 道路を横断するときには「とまる、みる、たしかめる」行動を心がける。
- どんな事があっても道路には飛び出さない。

- 特に横断の場面に着目させる。
- 意見がまとまったら、各班で発表し、情報共有する。



- ①駐車車両の近くを通らない。
- ②店の駐車場へ出入りする車に注意する。
- ③横断歩道を渡るときは「とまる、みる、たしかめる」通行をする。
- ④木で左右の道が見えにくく危険である。

- 自分の通学路と照らし合わせ、危険箇所を考えさせる。
- 正しい通行や横断をしていても相手（車）の行動によって事故になる場合があることを伝える。
- 小学生は体が小さいので、車のドライバーからは見落とされやすいことを伝える。
- 今後は注意して通学するよう指導する。

評価

- 道路を歩く際の危険について理解し、安全な通行方法について考えている。

どの校種においても入学初年度に交通事故の件数が多く、年度が進行するに従い減少する傾向がある。特に小学校低学年では「歩行中」に事故にあう割合が高い。その結果から小学1年生では「歩行」に関して交通安全教育を早期に実施すれば事故の軽減につながると考えられる。

また、本展開例の学級活動の事後指導として生活の（１）「学校と生活」（みんなで通学路を歩こう）を位置付け、実際に通学路を通行し、危険箇所を発見したり、安全な通行の仕方「とまる、みる、たしかめる」を実践することで目標の実現を確認することができる。

関連する
教科・行事等

生活：（１）「学校と生活」
道徳：低２－（４）感謝、低４－（１）規則の尊重

2 小学校 3・4年生

自転車に乗るときに気を付けることは？

指導する学年	3・4年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1時間
本時のねらい	自転車に乗る際の留意点を知り、安全な自転車の乗り方について考える。				
使用する資料	J A 共済 「小学生向け交通安全教育DVD：自転車基本編（小学3・4年生向け）」（平成24年）			基本的な指導内容	
				1 交通行動の基本 2 交通状況への適応力	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導 入 1. 自分の自転車の乗り方について振り返る。 ・ワークシートの質問に答える。 ・DVDを視聴する。 こんな時に起きている！ 小学生の交通安全  【小学生向け交通安全教育DVD（チャプター1、2）】 ・自転車は自動車と同じ「車両」であることを認識する。			○自転車乗車時についての質問（ワークシート）に答えさせ、児童が自分の交通行動を振り返ることができるように指導する。 ○DVD（7分30秒）を視聴させ、自転車に乗るときは交通ルールを守る必要性を伝える。 * 歩道では歩行者が優先 * 信号を守る * 歩行者に怪我をさせた場合は自転車に乗っている人の責任になる * 自転車の車体が安全であることが必要 ○視聴中に一時停止をして、潜む危険を考えさせる。		
自転車に安全に乗るにはどんなことに気を付ければよいだろう。					
展 開 2. 自転車の整備点検のポイントを知る。 ・「ぶ・た・は・しゃ・べる」の頭文字からどこを整備点検すればよいか考える。 ・ワークシートに記入する。 3. ヘルメット着用と自転車整備点検の大切さについて知る。			○自転車の写真やイラストを提示し、考えさせる。 ぶ…ブレーキ※ た…タイヤ は…ハンドル しゃ…車体（サドル、ライト※、チェーン、反射材※） べる…ベル※ ※は法律で規定されている（自転車に装備されていないと違法自転車となる）。 ○自転車の装備等が壊れていると事故につながることを説明する。 ○DVDを視聴させる前にヘルメットの有効性について触れる。 発問「自転車の事故を起こすと体のどの部		

- ・DVDを視聴する。



【小学生向け交通安全教育DVD（チャプター3）】

まとめ

- 安全な自転車の乗り方を班で話し合い、実践できるようにする。
 - ・ワークシートの自転車乗車時の質問結果を班で共有し、その感想を述べる。
 - ・これからの生活で自転車に乗るときにどんなことに気を付ければよいか考え意見交換する。

分を怪我しやすいと思う？」

→車とぶつかって車体に頭をぶつける、自転車で転んだ場合は地面に頭をぶつける

- DVD（4分）を視聴させ、自転車整備点検についての留意点をワークシートに記入させる。

- ヘルメットの有効性について補足する。

* 自転車の死亡事故のほとんどが頭部外傷であり、ヘルメットを正しく着用すれば死亡事故の割合が4分の1に減少する

- 小学生が自転車に乗るときはヘルメットの着用が道路交通法で定められている事を伝える。（注）→大人になっても命を守るにはヘルメット着用は重要。

- 各質問項目で「はい（安全な行動・対策）」の人数が班の中に何人いるか確認させる。

- 班での情報交換の結果を発表させ、思った以上に「できていない」ことに気付かせる。（「できている」では「大人はできているか」を考えさせる）

- 自転車に乗っている時でも歩行時と同じように道路横断時には「とまる・みる・たしかめる」行動が大切であることを指導する。

- 自転車は便利な反面、安全に運転しないと事故に遭う可能性が高くなることを指導する。

- ・自転車の点検整備は定期的に行い、自転車に乗る時には必ずヘルメットを着用する。
- ・自転車乗車時であっても歩行時と同じように「とまる・みる・たしかめる」行動を心がける。

評価

- ・自転車の整備点検とヘルメット着用の重要性について理解している。
- ・自転車に乗るときも「とまる、みる、たしかめる」安全な行動をとるよう考えている。

学習指導要領においては低学年では「生活科」、高学年では「体育（保健領域）」で交通安全について学習する機会があるが中学年では教科で学習する機会がないため、継続性が保たれていないことも考えられる。本展開例では低学年→中学年→高学年の継続性としての側面と自転車の交通安全教室の事前指導としての側面がある。

（注）道路交通法 第63条の11においては「児童又は幼児を保護する責任のある者は、児童又は幼児を自転車に乗車させるときは、当該児童又は幼児に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。」と規定されている。

関連する
教科・行事等

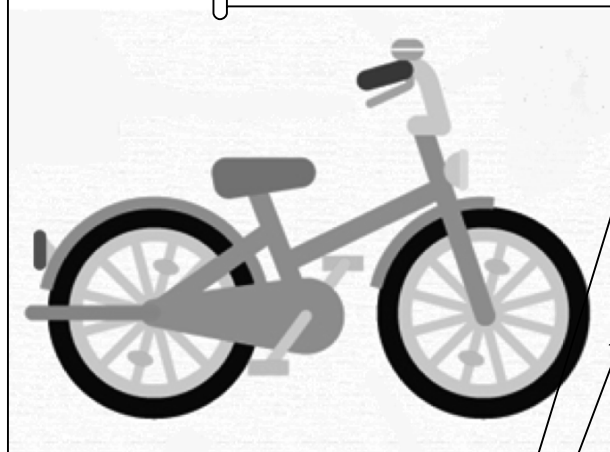
特別活動（学校行事）：「交通安全教室」
道徳：中4-（1）規則の尊重・公徳心

自転車に乗るときに気をつけることは？

自転車の乗り方を思い出して質問にこたえよう

- | | | |
|-------------------------------------|----|-----|
| 1. 自転車に乗っているときはスピードを出さない | はい | いいえ |
| 2. 交差点や曲がり角では止まって安全確認する | はい | いいえ |
| 3. 信号は必ず守っている | はい | いいえ |
| 4. 私の自転車はこわれていない（ブレーキ、ライト、ベル、反射材など） | はい | いいえ |
| 5. 月に1回は自転車の点検をしている | はい | いいえ |
| 6. 自転車用のヘルメットを持っている | はい | いいえ |
| 7. 自転車に乗るときは必ずヘルメットをかぶる | はい | いいえ |

自転車整備のポイントをまとめてみよう



整備のポイント

ぶ……（

た……（

は……（

しゃ…（

べる…（

自転車に乗るときに気をつけることは？解答解説編

自転車の乗り方を思い出して質問にこたえよう

枠囲みの問題は守れない場合は交通ルール（道路交通法）違反になります。

1. 自転車に乗っているときはスピードを出さない

・・・特に歩道を走行している場合は「**歩行者優先**」です。スピードを出してはいけません。

2. 交差点や曲がり角では止まって安全確認する

・・・自転車の事故原因の多くは「**安全不確認**」です。

3. 信号は必ず守っている

・・・信号機のある交差点では信号機に従わなければなりません。

4. 私の自転車はこわれていない（ブレーキ、ライト、ベル、反射材など）

・・・法律で自転車にはブレーキ（左右）、ライト、ベル、反射材の装備が義務付けられています。

5. 月に1回は自転車の点検をしている

・・・特にタイヤの空気はチェックしましょう。壊れている自転車には乗らないようにしましょう。

6. 自転車用のヘルメットを持っている

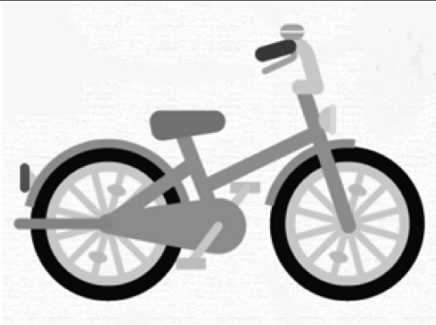
・・・法律によって小学生（13歳未満の幼児・児童）はヘルメットの着用努力義務が規定されています。持っていない場合は購入しましょう。

7. 自転車に乗るときは必ずヘルメットをかぶる

・・・ヘルメットを持っても自転車に乗るときにかぶらなければ意味がありません。必ずかぶるようにしましょう。

自転車整備のポイントをまとめてみよう

整備のポイント



ぶ……（ブレーキ）

た……（タイヤ）

は……（ハンドル）

しゃ…（しゃたい（車体））

べる…（ベル）

左右のブレーキがきちんと効くか確かめる。

タイヤの空気が抜けていないか、すり減っていないか、スポークが壊れていないか確かめる。

ハンドルを上から見て、曲がったり歪んだりしていないか確かめる。

サドルの位置は適切か（乗った時足裏の半分が地面に着く位置）。チェーンを回してみてカバーに当たらない、ライトは灯るか、反射材は壊れたり汚れたりしていないか確かめる。

ベルを鳴らした時、きちんと鳴るか確かめる。

3 小学校 5・6年生

自転車ルールを理解と安全な行動計画

指導する学年	6 年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1 時間
本時のねらい	自転車の交通ルールを理解し、周囲の状況を分析し安全な行動計画をたてられるようにする。				
使用する資料	J A 共済 「小学生向け交通安全教育DVD：自転車発展編（小学5・6年生向け）」（平成24年）			基本的な指導内容	
				1 交通行動の基本 2 交通状況への適応力 3 行動計画の力	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導 入 1. 小学生・中学生の自転車事故の特徴を知る。 ・平成24年に発生した交通事故のグラフから交通事故の要因を考える。 ・中学校入学時に事故が急増することを知る。			○中学1年生では自転車事故の割合が増加していることを伝える。 * 自転車で通学している生徒が多い * 入学当初は学校までの交通状況や危険箇所がよくわからない ○小学6年生の時点で自転車の交通ルールを理解し、中学校までの通学路の危険を把握する必要性を知らせる。		
交通事故に遭わないよう通行するには、どのように自転車の運転をすればよいだろう。					
展 開 2. 自転車の交通ルールについて理解する。 ・自転車安全利用5則に関連するクイズに答える。 ・答え合わせを行う（DVDを視聴する）。   【小学生向け交通安全教育DVD：自転車発展編（チャプター7）】			○クイズを通じて、生徒の自転車ルールの理解度を把握する。 ○答え合わせとともにDVD（2分30秒）を視聴させ、自転車安全利用5則について解説する。 ○交通ルールの遵守だけでは交通事故が防げるわけではないことを説明する。 発問「交通ルールをちゃんと守れば事故はおこらないだろうか」→相手が違反すれば事故につながる、お互い気を付けていても事故が起こる時もある ○万一事故になった時の対策（ヘルメット着用）のことも考えさせる。 ○「とまる、みる、たしかめる」安全行動を確認させる。		
3. 班別に校区の中学校付近の経路に潜む危険箇所を見つけ、回避方法を考える。 ・保健「交通事故の防止」で学んだ交通事故の特徴や原因を想起する			○危険箇所の特徴をおさえる。 【場所】交差点、信号機のない交差点、見通しの悪い交差点、歩道のない細い道路 【形態】出会い頭による車との衝突、左折車の巻き込み、歩行者との衝突		

- ・中学校区の拡大地図に危険箇所と回避方法を書き込む。
- ・安全な通行ルートを考え、書き込む。

4. 各班で作成した地図を発表する。
- ・考えられる危険とその回避方法を発表する。
 - ・通行ルートとその理由を発表する。

まとめ

5. 本時の学習を振り返り、安全なルートの設定及び自転車運転の目標を立てる。

○危険な箇所の内容は赤付箋、その回避方法は青付箋で地図に貼らせる。

- 危険箇所を全体で共有させる。
- 発表した回避方法が正しいか、他の方法はないか他の班の意見を聞く。
- 危険箇所を通行するルートもあることを認識させ、危険予測や回避行動の重要性を伝える。

- 交通ルールを守り、マナー良く自転車を利用することは自分だけでなく他人も守ることを確認させる。
- 目的地までなるべく安全なルートを考え、危険箇所を通る時には危険予測、回避行動がとれるよう意識させる。

- ・自転車安全利用5則を理解し、安全な交通行動を心がける。
- ・目的地まで安全なルートを設定できる。

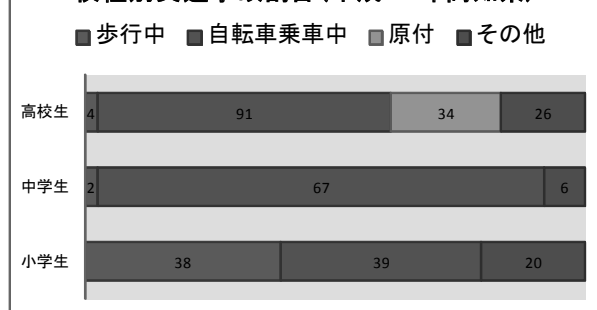
評価

- ・自転車の交通ルールを理解している。
- ・安全な通行ルートについて考えることができる。

全国平均をみると小学生では自転車事故の割合は1割程度であるが、高知県では4割程度であり全国と比べると、自転車事故の割合が高いのが特徴である。

また、全国の学年別の交通事故の状況をみると小学校・中学校・高等学校ともに死傷者は低学年ほど多く、学年が進行するにつれ減少していく。これは高知県でも同様の傾向を示している。

校種別交通事故割合(平成24年高知県)

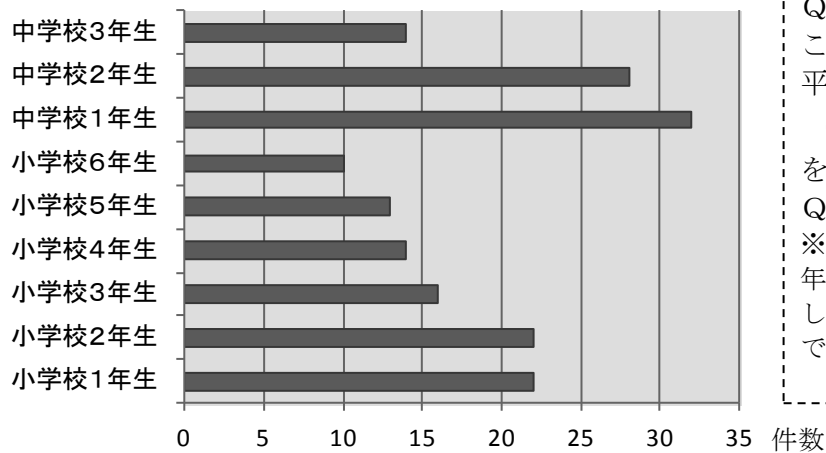


高知県の中学校の約9割が自転車通学を認めており、中学生になると多くの生徒が自転車通学になることから、小学6年生から中学1年生にかけての「つなぎ」となる自転車に関する交通安全教育が重要となる。

関連する
教科・行事等

体育（保健領域）：けがの防止-交通事故の防止
道徳：高4-（1）公德心

下のグラフは何を表わしているか考えてみよう



Q 1

このグラフは
平成 24 年に発生した
()
を表わしています。

Q 2

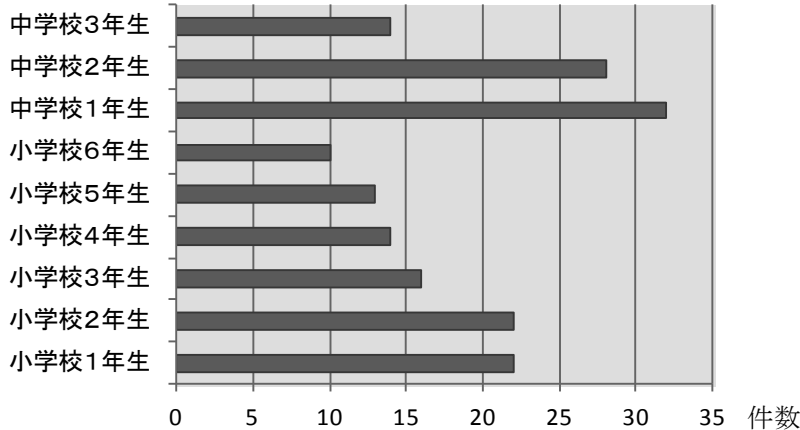
※小学 6 年生から中学 1
年生にかけて件数が急増
しています。それはなぜ
でしょうか？

自転車の交通ルールに関する問題

番号	問題文	回答欄
1	自転車は原則として車道を通行しなければならない	はい いいえ
2	自転車で車道を通行する場合は右側通行をしなければならない	はい いいえ
3	自転車で歩道を通行するときは歩道のどの部分を通行してもよい	はい いいえ
4	自転車で歩道を通行するときにスピードを出して通行してもよい	はい いいえ
5	自転車で歩道を通行中、歩行者がじゃまな場合、ベルを鳴らして警告してもよい	はい いいえ
6	信号機のある交差点では信号機に従わなければならない	はい いいえ
7	一時停止の標識がある場合は自転車も一時停止する必要がある	はい いいえ
8	自転車横断帯がある横断歩道では自転車は自転車横断帯を通行しなければならない	はい いいえ
9	自転車で道路を通行するときには友達と二人ならんで通行できる	はい いいえ
10	左右のブレーキのいずれかが壊れている自転車には乗ってはいけない	はい いいえ
11	かささし運転はしてはいけない	はい いいえ
12	けいたい電話を操作しながらの運転はしてはいけない	はい いいえ
13	自転車に荷台があれば二人乗りをしても構わない	はい いいえ
14	自転車を運転しながらイヤホンをして音楽を聴いても構わない	はい いいえ
15	小学生は自転車に乗るときはヘルメットをかぶらないといけない	はい いいえ

下のグラフは何を表わしているか考えてみよう

解答編



Q 1

このグラフは
平成 24 年に発生した
(交通事故件数)
を表わしています。

Q 2

※小学 6 年生から中学 1
年生にかけて件数が急増
しています。それはなぜ
でしょうか？

「通学範囲や行動範囲が広がる、学校までの交通状況がわからない」などが考えられます

自転車の交通ルールに関する問題

番号	問題文	回答欄
1	自転車は原則として車道を通行しなければならない	☐ はい ☐ いいえ
2	自転車で車道を通行する場合は <u>右側</u> 通行をしなければならない (左側通行)	はい ☐ いいえ
3	自転車で歩道を通行するときは歩道の <u>どの部分を通行してもよい</u> (車道寄りを通行する)	はい ☐ いいえ
4	自転車で歩道を通行するときに <u>スピードを出して通行してもよい</u> (徐行して通行し、歩行者の通行を妨げる場合は一時停止する)	はい ☐ いいえ
5	自転車で歩道を通行中、歩行者がじゃまな場合、 <u>ベルを鳴らして警告</u> してもよい (一時停止しなければならない)	はい ☐ いいえ
6	信号機のある交差点では信号機に従わなければならない	☐ はい ☐ いいえ
7	一時停止の標識がある場合は自転車も一時停止する必要がある	☐ はい ☐ いいえ
8	自転車横断帯がある横断歩道では自転車は自転車横断帯を通行しなければならない	☐ はい ☐ いいえ
9	自転車で道路を通行するときには友達と二人ならんで <u>通行できる</u> (通行できない、並進可の標識がない所では並んで走ってはいけない)	はい ☐ いいえ
10	左右のブレーキのいずれかが壊れている自転車には乗ってはいけない	☐ はい ☐ いいえ
11	かささし運転はしてはいけない	☐ はい ☐ いいえ
12	けいたい電話を操作しながらの運転はしてはいけない	☐ はい ☐ いいえ
13	自転車に荷台があれば <u>二人乗り</u> をしても構わない (原則禁止です)	はい ☐ いいえ
14	自転車を運転しながら <u>イヤホン</u> をして音楽を聴いても構わない (安全な運転に必要な交通に関する音が聞こえない状態となり危険なので禁止されています)	はい ☐ いいえ
15	小学生は自転車に乗るときはヘルメットをかぶらないといけない	☐ はい ☐ いいえ

4 中学校 1 年生

事故に遭わない起こさない～自転車運転の自己理解と事故の責任・補償～

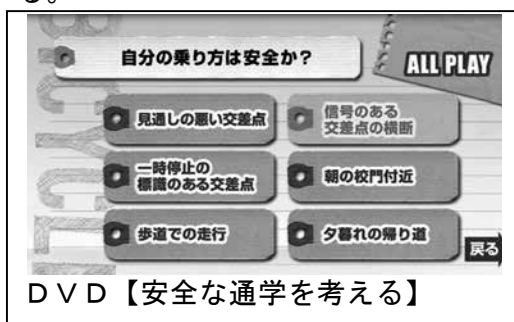
指導する学年	1 年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1 時間
本時のねらい	自分の自転車運転を振り返り、安全な通行方法を考えとともに自転車の加害者事故について理解する。				
使用する資料	文部科学省DVD【安全な通学を考える】(平成 24 年) 本田技研工業(株)安全運転普及本部 【事故事例から学ぶ、自転車の危険走行】 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/			基本的な指導内容	
				2 交通状況への適応力 3 行動計画の力 4 社会生活の力	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

- 自分の自転車運転について振り返り、交通事故の要因を考える。
 - ・ヒヤリ、ハット体験をワークシートに記入する。
 - ・DVDを視聴し、ワークシートに記入する。



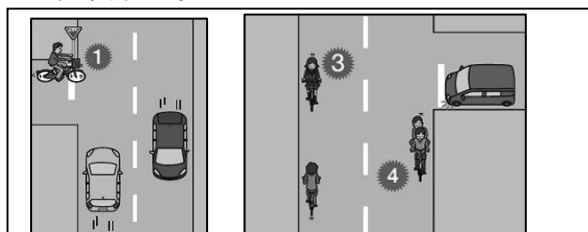
- ・感想を発表する。

- 「安全な通学を考える」(文部科学省H24)のワークシートを使用する。
- 特に自宅から中学校までの通学路をイメージさせ、生徒自身の自転車運転と重ねて考えさせるよう配慮する。
- DVD視聴、ワークシート記入、感想発表において気付かせたいポイント
 - * 自転車事故の約6割が自転車側にも交通違反がある
 - * 自転車の乗り方によっては「事故に遭う可能性と事故を起こす可能性」がある
 - * 交通事故を起こす要因の一つに運転者の「心理状態」が挙げられる

事故に遭わない、事故を起こさないためには何に気を付ければよいだろう。
自転車事故の加害者になるとどんな責任が発生するだろう。

展開

- 自転車事故の事例について班で話し合い発表する。



【事故事例から学ぶ、自転車の危険走行】

- 各班で事故事例について次の観点から意見をまとめる。
 - ①自転車側にどんな危険行為(交通違反)があったか
 - ②なぜ事故を起こしたか、運転者の心理状態を考える
 - ③事故を起こしたらどんな責任や補償が発生するか(道義的な責任や損害賠償など)

- ・危険な走行、心理状態、事故の影響について意見を出し合う。

3. 交通事故遺族の手記を読む。
- ・「交通死亡事故」の影響を考える。
 - ・感想を発表する。

4. 安全な自転車運転をするために、どのような気持ちの整理が必要か考える。



まとめ

5. 学習を振り返り、これからの自分の自転車運転の目標を立てる。

- 交通事故は本人だけでなく、家族や友達など周りの人間にも人生を変えるほどの悪影響を与えることを理解させる。
- 加害者は一生罪の意識を背負って生きていくことを理解させる。

- DVD（気持ちを意識してみよう！）を視聴させる。
- 交通ルールを知っていても、守れない実態があることを考えさせる。
- 特に中学生は登下校中の事故が多く、時間に余裕をもった早めの行動を心がけるよう指導する。
- 些細な不注意が交通事故につながることを意識させる。

- 個人の安全な交通行動が安心安全な交通社会を形成することにつながることを意識させる。

- ・「焦り、イライラ」「少しだったら違反しても大丈夫」など心理状態が交通事故につながるのを、自分の心をコントロールできるようにする。
- ・加害者になった場合は損害賠償などの補償が発生するなど、自転車に乗ることには「責任」が生じる。



評価

- ・交通事故は心の状態が一つの要因であることに気付いている。
- ・加害者にならないよう他者にやさしい自転車運転の目標を立てている。

【交通事故被害者遺族の手記等】

高知県警察～交通事故の加害者・被害者遺族手記集～

www.pref.kochi.lg.jp/uploaded/life/45707_118148_misc.pdf

【TSマーク保険について】

TSマークは自転車安全整備士による点検、整備を受けた安全な普通自転車であることを示し、保険が付帯されています。TSマーク付帯保険は、自転車搭乗者が交通事故により傷害を負った場合に適用される「傷害補償」と、自転車搭乗者が第三者に傷害を負わせてしまった場合に適用される「賠償責任補償」とがあります。有効期間は点検整備の日より1年間です。補償内容等の詳しい内容は下記アドレス（高知県交通安全協会HP）より閲覧できます。

<http://www.kochi-ankyo.or.jp/info/tsmark.html>

関連する
教科・行事等

特別活動（学校行事）：「交通安全教室」
保健体育（保健分野）：障害の防止「交通事故の現状と要因」「交通事故の防止」
道徳：中学校4-（1）法やきまりの意義

5 中学校 3年生

自分たちにできること～地域の安全を守る役割～

指導する学年	3年	指導場面	特別活動 (学級活動)	指導する時数	1時間
本時のねらい	交通社会を形成する自分と異なる立場を知り、自分にできる交通安全活動を考える。				
使用する資料	文部科学省DVD 「安全な通学を考える」(平成24年)			基本的な指導内容	
				3 行動計画の力 4 社会生活の力	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

- 高知県の交通安全運動についてのクイズに答える。
 - 交通安全運動、交通安全日を答える。
 - なぜ、その活動を行うのかを考える。

- どんな人たちが関わっているか意見を出させる。
- * 警察、PTA、地域ボランティア、交通安全指導員等
- 安全で安心な交通社会をつくるため、特に子どもの安全を確保するために多くの人たちが活動していることを理解させる。

地域の交通安全を守るために、自分にできる交通行動や交通安全活動には何があるだろう。

展開

- 自分の交通行動を振り返り、周りへの影響を考える。
 - 小さい子どもに影響を与えていることに気付く。
 - 普段の自分の交通行動を振り返る。

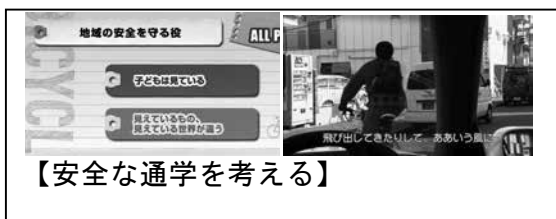


【安全な通学を考える】

- DVD(地域の安全を守る役①)を視聴させ、中学生の行動が周囲に見られていることに気付かせる。
- 小さい子どもはよくも悪くも周囲の影響を受けやすいことを伝える。
- 自分の交通行動が周囲に影響を与えることを意識させる。
- 交通社会には自分以外にも様々な立場の人がいることを知らせる。

- 交通社会における様々な立場の視点から、安全な交通行動について考える。
 - 子ども(幼児)、高齢者、障害者、自動車ドライバーの視点。
 - 各自で答えを記入する。
 - グループの中で意見交換する。

- DVD(地域の安全を守る役②)を視聴させ、様々な立場の人々(子ども(幼児)、高齢者、障害者、自動車ドライバー)の気持ちになって「危険」と思う所について考えさせる。
- どのような交通行動が様々な立場の人々の安全を守ることになるのか意見交換させる。
- クラスや学校として、地域の交通安全に貢献できる活動を考えさせる。



まとめ

4. 自分ができる交通安全活動について考え実践できるようにする。
- ・ 今、自分にできること
 - ・ 学校全体でできること

○交通ルールを守るとともに、相手に配慮した運転が大切であることを理解させる。

- 友達同士で注意し合う、交通違反や危険な交通行動をしないよう声をかけあうなどできることから始めるよう意識させる。
- 年齢が高くなるにつれ、自分の安全を守ることより他人の安全を守ることが増えていくことを理解させる。

- ・ 子どものお手本となるように交通ルールを守る。
- ・ 相手の立場を理解し、相手に配慮した交通行動を心がける。
- ・ 友達同士で安全な交通行動ができるよう声をかけあう。

評価

- ・ 様々な立場の人々の交通上の危険を理解し、周囲に配慮した交通行動について意見を述べている。
- ・ 自分ができる交通安全活動や学校で取り組むことのできる活動について考えている。

交通社会では「みんながやっているから」という意識があるために、交通ルール違反や危険な交通行動をとることが問題となり、とりわけ自転車乗車中では周りがやっている違反運転を「当たり前」のようにとらえてしまう。そのようなことから、「交通ルールを守る」「安全な自転車運転を心がける」など学校全体で交通安全を推進していくことが大切である。

学校全体で交通安全を推進するには、交通安全委員会を中心として、生徒会活動を充実していくことが考えられる。

また、全国には中学生が地域の小学校や保育所・幼稚園で出前授業を行う、朝の通学時間帯に小学生を見守る活動を行う、地域団体の主催する交通安全のイベントに参加するなど幅広く生徒会活動を行っている所もある。中学生が地域社会に貢献できる経験することは生徒自身も達成感が得られ、地域住民からも認められることで有能感を感じることにもつながる。

関連する
教科・行事等

特別活動（学校行事）：「交通安全教室」
保健体育（保健分野）：障害の防止「交通事故の現状と要因」「交通事故の防止」
道徳：中学校4－（4）役割と責任の自覚 4－（7）愛校心

知ってますか？交通安全運動、交通安全日

問1 高知県では春・秋・年末年始と交通安全運動が行われていますが、それぞれ何月に実施されているでしょうか

春の交通安全運動・・・() 月

秋の交通安全運動・・・() 月

年末年始の交通安全運動・・・() 月～() 月

問2 下の日は何を対象とした交通安全日でしょうか？語群から選びましょう

※毎月設定されています

4日・・・()

15日・・・()

20日・・・()

毎月第2・第4月曜日 ()

ア…県民交通安全の日

イ…高齢者交通安全の日

ウ…シートベルト・チャイルドシート
着用指導日

エ…原付・自転車街頭指導日

オ…児童・園児の交通安全の日

様々な立場から考えよう！

自分とは違うそれぞれ視点から、どんな危険があるか答えてみよう

立場	交通行動の特徴や危険
子ども	
高齢者	
視覚障害者 聴覚障害者	
自動車 ドライバー	

地域の交通安全を守るためにできることには何があるだろう

自分の取組

学校全体の取組

知っていますか？交通安全運動、交通安全日

解答編

問1 高知県では春・秋・年末年始と交通安全運動が行われていますが、それぞれ何月に実施されているでしょうか

春の交通安全運動・・・（ 4 ）月

秋の交通安全運動・・・（ 9 ）月

年末年始の交通安全運動・・・（ 12 ）月～（ 1 ）月

問2 下の日は何を対象とした交通安全日でしょうか？語群から選びましょう

※毎月設定されています

4日・・・（ ウ ）

15日・・・（ イ、エ ）

20日・・・（ ア ）

毎月第2・第4月曜日（ オ ）

ア…県民交通安全の日

イ…高齢者交通安全の日

ウ…シートベルト・チャイルドシート
着用指導日

エ…原付・自転車街頭指導日

オ…児童・園児の交通安全の日

様々な立場から考えよう！

自分とは違うそれぞれ視点から、どんな危険があるか答えてみよう

立場	交通行動の特徴や危険
子ども	特徴や危険：視線が低い、目の位置がタイヤの高さにある、大人や車が大きく見える
高齢者	特徴や危険：急な飛び出しに対して自分たち以上に怖い思いをする、認知（見て反応する速さ）が遅い、視野が狭く急に視界に自転車が入って来る
視覚障害者 聴覚障害者	特徴や危険（視覚障害）：音が周囲の状況を理解する重要な情報、白杖の先で多くのことを感じている、近くをすぐ人が通ると怖い、周りの人から見ると弱視の人は健常者と同じに見えてしまう 特徴や危険（聴覚障害）：視覚の外から接近する自転車や車に気付かない
自動車 ドライバー	特徴や危険：歩道から車道へ急に出る自転車、自転車とすれ違うとき接触しそう、自転車が死角に入る

地域の交通安全を守るためにできることには何があるだろう

自分の取組

学校全体の取組

6 高等学校 2 年生

交通行動の自己理解と行動計画

指導する学年	2 年	指導場面	特別活動 (ホームルーム活動)	指導する時数	1 時間
本時のねらい	自分の交通行動を振り返り、安全な行動計画を考えることができる。				
使用する資料	文部科学省 【危険予測学習教材：次はどうなる】(平成 14 年) 日本自動車工業会 【セーフティ・アクション 2 1】(平成 16 年)			基本的な指導内容 2 交通状況への適応力 3 行動計画の力 4 社会生活の力	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導 入 1. 自分の交通行動は安全かどうかを考える。 ・高知県の交通事故の特徴を知る。 ・ヒヤリ、ハット体験から自分の交通行動を振り返る。 高校生は登下校中の事故が多い 交差点での事故が多い 歩行時では飛び出しによる事故が多い 自転車乗車時では出会い頭の事故が多い 原動機付自転車では出会い頭、右左折時の事故が多い			○高知県の交通事故の特徴を知らせる。 ○ヒヤリ、ハット体験についてその状況と原因をワークシートに記入させる。 ○交通事故には様々な要因が関わっていることを伝える。 ○交通ルールや安全な行動について理解しているにも関わらず、危険な交通行動をする実態があることを伝える。 ○交通事故の原因の多くは主体要因（自分自身の行動）にあることを確認させる。 ○危険な箇所を通らない、危険な時間帯は注意して走行するなど行動を計画する力の必要性を知らせる。		
安全な交通行動ができるために、どのような力が必要か考え、実践していこう。					
展 開 2. 安全に行動するために必要なことを考える。 ・ワークシートを使ってどんな危険があるか、安全に通行するには何に気を付けるべきか考え、答える。 ・自分の交通行動を振り返り、自己採点する。    【危険予測学習教材：次はどうなる】 【セーフティ・アクション 2 1】			○見通しの悪い交差点を例に挙げ、考えさせる。 ※学校の実情に応じて例を変える ○歩行時、自転車乗車時、原動機付自転車乗車時の 3 つの場面を取り上げる。 ○「安全確認」が大切であることを伝え、「とまる、みる、たしかめる」行動の重要性を再確認させる。 ○移動速度、相手の動き、自分の動きが事故に関連することを伝える。 ○自己採点を 100 点にするには、何が足りないか答えさせる。		

3. 【問題】から交通行動の場面で、どのような判断をするのか考える。

○行動を計画する必要性に気付かせる。

あなたは先日、自動車運転免許を取得しました。友達と一緒に遊びに行くことになりましたが、待ち合わせの場所は初めて行く場所です。連絡をすると友達はすでに待ち合わせ場所で待っています。待ち合わせ場所まで、大きな道路を通るルートは信号機が多くあり、交通量も多く、到着するまで時間がかかります（Aルート）。狭い道路を通るルートは信号機がなく交通量も少ないが見通しの悪い交差点が多いです（Bルート）。あなたはどちらのルートを通行しますか？

- ・個人でA、Bルートの特徴や問題点を答える。
- ・各グループで意見交換し、問題点の解決方法を話し合う。

○ワークシートの問題から個人で選んだルートの理由を考えさせる。

○ドライバーの特徴を示し、判断させる。

- * 免許取り立て（運転技術が未熟）
- * 焦り（友だちを待たせている）
- * 不安（初めて行く場所）

○各ルートの特徴、問題点をまとめ、全体で共有させる。

○安全に通行するためには事前の対策が大切であることを実感させる。

- * 目的地までの通行ルートを考える
- * 時間に余裕を持って行動する
- * 交通状況を見て安全なルートを通行する
- * 友だちに遅れる旨の連絡をする
- * 焦り、イライラ運転をしない心構え

○車を運転する人は初心者、高齢者、急ぐ人など様々存在することを意識させる。

まとめ

4. 学習内容をまとめ、安全な交通社会の一員として、これからの行動目標をたてる。

○交通事故を防ぐには危険予測、安全な行動、自分自身の感情コントロール、安全に通行できる行動計画が必要であることを確認させる。

○一人ひとりの安全な行動が安心・安全な社会につながっていくことを意識させる。

自分の交通行動を自己理解し、安全な行動を考える。

感情をコントロールしたり、安全な通行ルートを考えるなど行動を計画する力を付ける。

評価

- ・自分の交通行動の課題を把握し、それを解決できるよう考えている。

【交通事故と職業の関係】

高校2年生になると、就職もしくは進学に向けた活動が始まる。悪質な交通違反を犯したり、交通事故で人を死傷させるなど、罰金以上の刑事罰（罰金、禁固、懲役）を受けると就けない職業がある。教育教職員、裁判官、検察官、弁護士、保護司、職業訓練指導員、地方公務員、国家公務員、自衛隊員、公認会計士、司法書士などは禁固以上の刑で免許が与えられない。自分の将来と交通安全が密接につながっていることを併せて理解させたい。

関連する
教科・行事等

特別活動（学校行事）：「交通安全教室」
保健：「（1）現代社会と健康-交通安全」

通学中ヒヤリ、ハットした体験を考えてみよう

- ①あなたの主な通学手段は？ ②「危ない」と思った状況（場所、相手や自分の行動）を思い出して書いてみよう

- ③その原因は何だろう？チェックしてみよう

※原付：原動機付自転車

- | | |
|---|---|
| ☐ 交差点で安全確認を行わなかった | ☐ 信号無視をした |
| ☐ 標識を無視した（自転車、原付） | ☐ 無理な横断や斜め横断をした |
| ☐ スピードを出しすぎた（自転車、原付） | |
| ☐ 傘をさして走行した（自転車） | ☐ 歩行者の間をすり抜けた（自転車） |
| ☐ 二人乗りをした（自転車、原付） | ☐ 友達と2列以上で走行した（自転車、原付） |
| ☐ 走行中に携帯電話、メール、ヘッドフォンを使用した（自転車、原付） | |
| ☐ 夜間、無灯火で走行した（自転車、原付） | |
| ☐ 友達と一緒にいて安全確認を忘れた | ☐ いつも車が来ない道なので油断した |
| ☐ 急いでいて焦った | ☐ 怒っていた、ショックなことがあった |
| ☐ その他（ | ） |

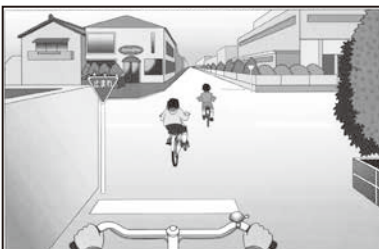
安全に通行するためには

- ①交差点での危険について、それぞれの状況から危険と思う所と安全に通行するには何が必要か考えてみよう

ア 歩行時

イ 自転車乗車時

ウ 原動機付自転車乗車時



・危険と思う所は

ア	イ	ウ

・安全に通行するには何に気を付けるべきか

ア	イ	ウ

- ②自分の交通行動を振り返り自己採点しよう

あなたの安全確認の仕方は何点？

0点---20点---40点---60点---80点---100点

100点満点にするには？

目的地までの行動を考えてみよう

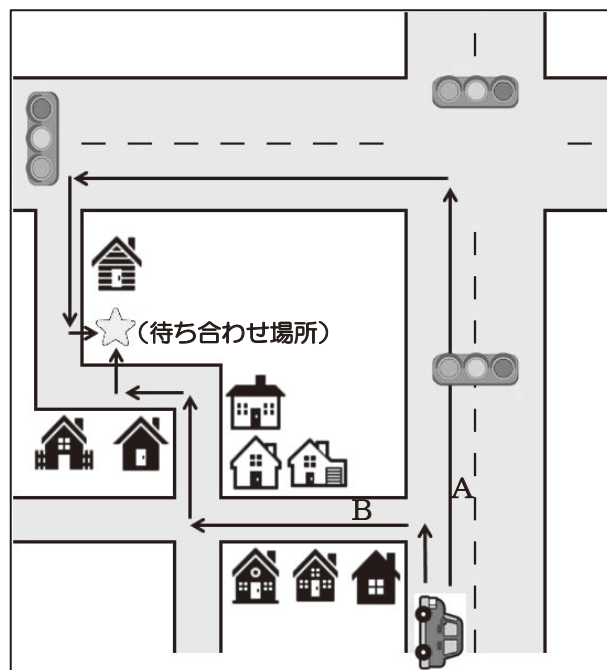
あなたは20歳の学生です。

あなたは先日、自動車運転免許を取得しました。友達と一緒に遊びに行くことになりましたが、待ち合わせの場所は初めて行く場所です。連絡をすると友達はすでに待ち合わせ場所で待っています。待ち合わせ場所まで、大きな道路を通るルートは信号機が多くあり、交通量も多く、到着するまで時間がかかります（Aルート）。狭い道路を通るルートは信号機がなく交通量も少ないが見通しの悪い交差点が多いです（Bルート）。あなたはどちらのルートを通行しますか？



ルート

このルートを選んだ理由



A・Bルートの特徴や問題点

Aルート

Bルート

安全に目的地に到着するには、どのような対策をとればよいか

安全な交通社会の一員として

自分の交通行動における課題は？



これからどんなことに気を付けて行動しますか？



7 中学校・高等学校

Traffic Safety News を活用した交通安全学習

指導する学年	中学校 高等学校	指導場面	朝の会、帰りの会等 SHR	指導する時数	(15分)
本時のねらい	交通ルールを再認識するとともに、安全な交通行動を考えよう。				
使用する資料	Traffic Safety News ※高知県警が作成し、毎月1回県内中学・高等学校に配布している交通安全学習教材			基本的な指導内容	
				1 交通行動の基本 2 交通状況への適応力	
学習内容・活動			指導上の留意点		
1. Traffic Safety News について考える。 - 交通安全クイズに答える。 - 交通安全ニュースを読む。  【Traffic Safety News10月号】			○Traffic Safety News を配付する。 ○交通安全クイズに取り組ませる。		
2. 隣同士で解答を確認し、意見交換する。 - 交通安全クイズの解答を確認する。 - 交通安全ニュースについて感想を話し合う。			○クイズの解答について生徒に手をあげさせ、交通ルールの理解度を把握する。		
3. 解答を知り、自分の考えとの相違点を確認する。 - 今日の交通ルールのポイントを理解する。 - 資料を持ち帰り、家庭で話題にする。			○解答用紙を配布し、解答を確認させる。 ○クイズの正解を説明する。 ※道路交通法上の根拠 ※安全に通行するための根拠 ○交通安全ニュースを確認し、生徒自身の交通行動に危険はないか確認させる。 ○交通安全について家庭で話題にできるよう意識付ける。		
【Traffic Safety News について】 この教材は上記のような展開例で交通ルールの理解や安全な自転車走行について短い時間で指導できるようになっている。また、交通安全クイズなど生徒に答えさせる活動を通じて、生徒の交通ルールに関する理解度などの実態把握ができる。 また、この教材は高知県警察のホームページからダウンロードが可能なので、学校の実態や課題に合わせて教材を再度使う事もできる。 http://www.police.pref.kochi.lg.jp/index_koutuanzen.html					
関連する 教科・行事等		日常の交通安全指導、登下校時の指導			

Traffic Safety News



～ 交差点の右左折について ～

1 交通安全クイズ

「信号交差点」の右折方法

- ①自転車に乗って「車道」を通行中、写真1の信号のある交差点にきました。
交差点を右折する時、正しい右折の仕方は、方法①もしくは方法②
のどちらでしょうか？

答え

写真1

方法①

まず、自転車横断帯を渡る。そして、一旦止まって向きを変え、前方の信号が青に変わってから渡る。



方法②

自動車と同じように車線中央に寄って交差点中心近くを右折する。

方法①

車道通行中

車道走行中

方法②

危険予知 クイズ

「住宅街のせまい道路」

- ②自転車写真2の道路を運転しています。
交通事故を防ぐため、どのような点に気をつけますか？

写真2



どの様なところに注意すれば、交通事故を防げるのかな？



写真をよく見て考えよう。

2 交通安全ニュース

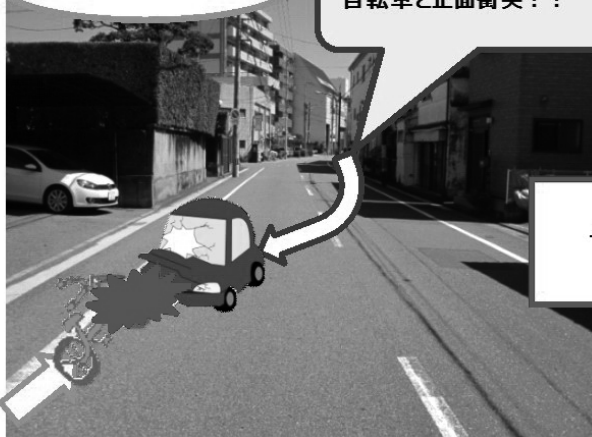
【事故の概要】

車と自転車が正面衝突！！

自転車は大破しましたが、自転車運転手はヘルメットを着用していたので、頭部に大きなケガをせず、一命を取りとめました！！

【事故イメージ図】

イメージ写真



乗用車が対向車線を走行中の
自転車と正面衝突！！

実際の写真



ヘルメット(頭)が
衝突した部分

自転車と衝突した自動車

実際の写真



頭を守ったヘルメット

実際の写真



大破した自転車

「ヘルメットの効果」について、ちょっと考えてみてください



ヘルメットをしていたから自転車の運転手さんは
命が助かったんだね。

自転車が関係する交通事故の中では、頭にケ
ガをした場合、重大事故や死亡事故になる可能
性が高いです。



●平成24年中の全国で自転車乗用中に亡くなった人は563人でしたが、
そのうち、頭をケガしたため、亡くなった人は「357人(63.4%)」でした。

Traffic Safety News 解答



～ 交差点の右左折について ～

1 交通安全クイズ 「信号交差点」の右折方法

①自転車に乗って「車道」を通行中、写真1の信号のある交差点にきました。
交差点を右折する時、正しい右折の仕方は、方法①もしくは方法②の
どちらでしょうか？

答え

1

方法①

まず、自転車横断帯を渡る。そして、一旦
止まって向きを変え、前方の信号が青に変わって
から渡る。



方法②

自動車と同じように
車線中央に寄って
交差点中心近くを
右折する。

方法①

車道通行中

方法②

車道走行中

「信号の無い交差点」の右折方法

- ① あらかじめ、道路の左の端に寄る
- ② 左右の安全確認をする
- ③ 交差点を「大回り」するようにして右折する。

左右の安全確認を忘れずに！



自転車自動車のように交差点の中心近くを右折すると
「自転車の交差点右折方法違反」となります。
(罰則 2万円以下の罰金又は科料)

自転車で走行中、交通ルールを守る義務が発生します。
交通ルールを守りましょう！！

- ②自転車で写真2の道路を運転しています。
交通事故を防ぐため、どのような点に気をつけますか？

歩行者に注意！
スピードを落としてください。

他にも学生の皆さんで
いろいろと考えてください



写真2



住宅から人が出てくる
可能性はありませんか？

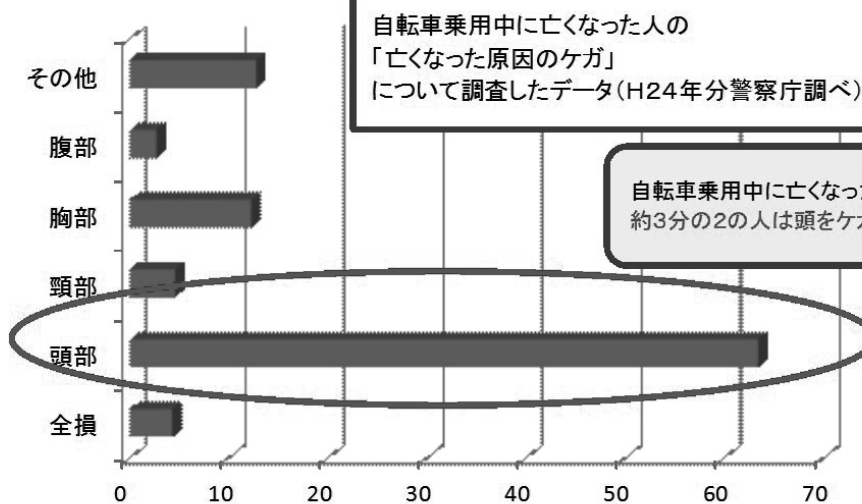
2 交通安全ニュース

ヘルメットを着用
しましょう。

【事故の概要】

車と自転車が正面衝突！！

自転車は大破しましたが、自転車運転手はヘルメットを着用していたので、
頭部に大きなケガをせず、一命を取りとめました！！



自転車乗用中に亡くなった方の
約3分の2の人は頭をケガして亡くなっています。



頭を守ったヘルメット



大破した自転車

Traffic Safety News



～ 交差点の右左折について ～

1 交通安全クイズ

はじめに...

自転車の自転車横断帯による交差点通行については...

※ 道路交通法第63条の7第1項

「交差点に自転車横断帯があるときは、自転車は、その自転車横断帯を通行しなければならない。」

と規定されているので、

「交差点に自転車横断帯がある場合は、

自転車横断帯を必ず渡りましょう。」

このことが大前提となります。

自転車横断帯がある交差点では、安全確保のため、自転車横断帯を渡りましょう。



ポイントです

その上で...

自転車の右折については...

※ 道路交通法第34条第3項

「軽車両(自転車)は、右折するときは、あらかじめその前から道路の左端に寄り、かつ、交差点の側端にそって徐行しなければならない。」(罰則...2万円以下の罰金又は科料)

と規定されているので、

「交差点を右折する場合は、交差点内を大回りする様に右折しましょう。」

この事から、クイズについては...

①自転車に乗って「車道」を通行中、写真1の信号のある交差点にきました。交差点を右折する時、正しい右折の仕方は、方法①もしくは方法②のどちらでしょうか？

答え

1

となります。

自転車横断帯の無い交差点についても、交差点の内周を外大回りで徐行して右折してください。



まずは生徒さんに危険なポイントを列挙してもらってください。

住宅街
(家から人が出てくるかもしれない)

危険予知の
ポイントです

下校中の小学生(歩行者)



写真2

【指導上の留意点】

- ① 住宅街の「狭い道路」であることを説明のうえ、生徒から、注意点を列举させて、
「交通事故防止のポイント」
「加害者とならないために」(歩行者と衝突すれば、相手に怪我を負わせてしまう)
「被害者とならないために」(車が進行してくるかもしれない「かもしれない」という考え方)
に気づかせてください。また、学校周辺に同様の場所があれば、学校周辺においても同様であることを指導してください。

2 交通安全ニュース



死亡事故となっても不思議でない
車両の損壊状況です。



ヘルメットが頭部を
保護しています。

自転車乗用中の死者は 頭部損傷が高い割合です。

H24年警察庁調べでは、自転車乗用中の死者のうち約3分の2の人は頭部をケガして亡くなっています。(563人中357人)

【依頼項目】

生徒にヘルメットの重要性について考えさせてください
もしも、交通事故に遭った場合、ヘルメット着用の有無によって、
「命が助かるか否かが分かれるケースがある」
ことを生徒に気づかせてください。

ヘルメットにより、自分の将来を守ることができることについて、ご指導をお願いします。



教員の皆様にも自転車
を運転される際
の、ヘルメットの着用
を推奨します

- 事故に遭わないのが一番ですが、万一の場合に備え、自転車保険等の加入についても確認してみましょう。
- ヘルメットの安全性能についても良く確認しましょう。

お願い

上記の写真内容については、

○ご家族等が同様の事故で死傷されている場合等

指導が相応しくない事も考えられますので、「各校のご判断で、指導項目の取捨選択」及び、「場合によっては、交通安全ニュースの生徒への配付の中止」もご判断ください。

交通安全に関する様々な取組

【安芸市立井ノ口小学校の事例】

校内で交通安全教室を行った後、学校周辺の公道を使って、実際に歩行、自転車の乗り方の安全教室を実施。狭い路地や交差点など危険箇所の各ポイントで「自転車チェック表」を使って子どもの自転車の乗り方等を指導している。

また、4～6年生が地域ボランティアの方とともに通学路の危険箇所や校門前で下級生への交通安全指導を行いながら街頭啓発活動を実践している。

実際の通学路で安全な通行方法を実践することや交通安全意識を高める活動など、保護者、地域、関係機関が連携し、地域ぐるみで子どもの安全を確保する取組が行われている。

◆公道を使った交通安全教室



【1・2年生：道路の安全な通り方】



【3～6年生：自転車の安全な乗り方】

◆交通安全街頭啓発活動（安芸市ハッピースマイル運動）

